

昼間	Deutsch
コース	ドイツ語

皆さん、入学おめでとう。小樽商科大学での勉学のうち、皆さんにとってまず最も目新しいのは、恐らく英語以外の外国語ではないかと思われます。ここではそのトップバッターとして、ドイツ語の紹介をいたします。

【日本とドイツ、そしてヨーロッパの中でドイツ】

ドイツ語はドイツ・オーストリア・スイス・リヒテンシュタイン、あるいはベルギーやルクセンブルクの一部で使用され、これを母語とする人口は約 1 億 3000 万人ですが、北欧・南欧・東欧・ロシアはドイツと緊密な経済・文化関係があるため、ヨーロッパでは英語に準じて広く通用する言語です。

さて日本に目を転じると、遠い国であるドイツの言葉が結構多く日常会話の中で使われているのです。日本語になったドイツ語、どんなものがあるでしょう？ アルバイト、これは身近なドイツ語のナンバーワンですね。他にもゼミナール、リュックサック、メルヘン、ワッペン、ワンダーフォーゲル、カルテ、ガーゼ、ゲレンデ、ヒュッテ、笑えるものではルンペンなんてものもあります。なぜ日本語にとってドイツ語はこれほど身近なのでしょう？

日本とドイツ。実はこの両国の関係は古く、明治時代初期から始まります。(江戸時代後期に日本で活躍したシーボルトは、政治的な理由から自らをオランダ人と称しておりましたが、実はドイツ人でしたので、その関係は更に古くなります。) 成立間もない明治政府は、近代国家形成をドイツ(正確にはベルリンを首都とするプロイセン王国)に学んだ点が多く、近代化に必要な諸学問について、また哲学や芸術の分野においても、当時最先端を走っていたドイツから多くを輸入したのでした。つまり、世界を知り、世界を表現するためには、ドイツ語を少しでもかじっておく必要があったのです。こうして日本の知識人の先達たちが、ドイツからたくさんの言葉を持ち帰ったわけです。

【ドイツ語学習のメリット】

では、現代のわれわれがこのドイツ語を学習する意味とは何なのでしょう。例えば以下のような 3 点が挙げられるでしょう。

1. 上に述べたように、ドイツは我が国の近代的学問の発展に多大な影響を与えた国です。戦後もまた、

ドイツと日本の両国は、経済、科学、政治、文化の分野において互いに重要なパートナーであり、共通の価値観を分かち合ってきました。ドイツ語を学ぶということは、わが国の過去と未来について思考することの大事な一助となるでしょう。

2. ドイツも中核となっている EU (ヨーロッパ連合) の理解にも役立ちます。EU は現在 27 カ国の加盟国と約 5 億の人口を擁する大きな政治的・経済的単位であり、今日いかに問題を抱えているとはいえ、EU 抜きに世界の政治・経済は語れません。EU の中央銀行が置かれるドイツはリーマン・ショックからもすぐに立ち直り、ヨーロッパでは「ドイツの一人勝ち」と言われるほど強固な経済力を保っています。「世界で最も影響力のある女性」と言われたアンゲラ・メルケル首相の政権は、難民保護政策に関して注目されました。今後も政治面・経済面でのドイツのリーダーシップに世界の目が注がれています。

3. ドイツは福島原発事故の後、早々と脱原発路線を決定した環境先進国でもあります。未来のエネルギー政策は言うに及ばず、社会福祉、余暇利用、女性の社会進出、地方自治などについてドイツから学ぶべき点は少なくありません。

【ドイツ語とはどんな言葉？】

学者たちが持ち帰った言葉、ということでドイツ語には堅苦しいイメージありますが、そもそもドイツ語と英語は同じ言語から枝分かれした兄弟関係にあるので、英語を学んだ皆さんにとってドイツ語の文法を理解することはさして難しくないはずです。発音は基本的にローマ字読み近く、英語とよく似た単語でも、発音は英語よりずっと簡単です。例を挙げてみましょう。

(ド) Sie hat ein Buch. (ジー ハット アイン ブゥッ)

= (英) She has a book.

(ド) Das ist eine gute Idee. (ダス イスト アイベー グーテ イデー)

= (英) That is a good idea.

(ド) Es ist kalt hier. (エス イスト カルト ヒア)

= (英) It is cold here.

どうです？ 簡単そうでしょうか？ 勿論、実際の文章はこれほど単純なものばかりではなく、色々な語尾変化もありますが、数多くの練習をゆっくりとこなしていけば、恐れるには足りません。

【4年間の学習プロセス】

関連科目を組み合わせることで、効率的

な学習を達成できます。

●第1段階（必修科目：ドイツ語Ⅰ／選択科目：外国語コミュニケーション）

1年次で履修する入門段階です。目標は基本的な語学能力の習得。ドイツ語の基本構造に加え、現代ドイツ語圏の生活・文化・社会の事情に触れながら4技能（話し、聞き、読み、書く）の総合力育成を目指します。

●第2段階（必修科目：ドイツ語Ⅱ／選択科目：国際コミュニケーション（隔年開講））

2年次のドイツ語Ⅱは2コースに分かれて履修します。週2回履修するAコースと週1回のBコースです。Aコースはドイツ語を集中して学ぶコースで、それなりのモチベーションと努力が要求されます。Bコースも週1回とは言え、1年次に学んだ基礎の確認から発展・応用と、ドイツ語力の堅実なレベルアップを図ることができます。

●第3段階（選択科目：ドイツ語上級）

学習意欲のある3～4年次生が対象。半期あるいは1年の学習によって更に上級の総合的語学能力の獲得を目指します。

●第4段階（協定大学での留学）

本学では、2年生以上を対象とした交換留学プログラム（本学協定大学のバイロイト大学・ウィーン経済大学・ベルリン経済法律大学で半年または1年の留学）が用意されており、生きた環境の中でコミュニケーション能力を磨くことができます。語学に限らず他の科目も履修でき、取得した単位は本学で認定可能です。国際化が加速する現在、学生のうちに異文化を体験することは将来の人生にとって大きな糧となるでしょう。参加を検討してみてください。成績優秀者には奨学金も支給されます。

これらの学習の間に、札幌では「ドイツ語技能検定試験（独検）」も行われます。挑戦してみてください。

【ドイツ語Ⅰについて】

○授業回数：週2回（火・木）

○クラス編成：I-a、I-bの計2クラス

○クラス分け：教科書は2クラス共通ですので、授業内容に大差はありません。従って2つのクラスは学生番号順に振り分けられます。

【授業内容】

総合型の教科書を用いつつ、多彩な会話練習と文

法練習を経て総合的なドイツ語基礎能力の育成を図ります。教室ではペアでの会話練習などを通して繰り返し練習していきますから、毎回の授業に積極的に参加していれば、自ずと語学力が身につくはずで、これに加えて、ドイツの風習や歴史について学んだりしてゆけば、今まで皆さんが知らなかったドイツ語の世界が徐々に目の前に開けてくることでしょう。

なお、選択科目として「基礎科目」の分類となる「外国語コミュニケーション」は、必修授業を補完するもので、会話力のアップに重点を置いた科目です。将来ドイツ留学を考えている人には是非お勧めします。

さて皆さん、コロナ禍が収まり、ドイツ語も履修したなら、一度ドイツを訪れてみてください。ドイツ全土に点在する美しい古都、落ち着いた大学町、古城をつなぐ街道とライン河、現代都市工学の粋を結集して変貌を遂げた首都ベルリンなど、見るべきものがたくさんあります。また4回のワールドカップ優勝を誇るドイツはサッカー大国。日本人選手が多数活躍するプロサッカーリーグ「ブンデスリーガ」などを通じて、ドイツは多彩な顔を見せてくれます。旅行でも留学でもドイツ語を使って外の世界に出してみましょう。ドイツ語を履修した皆さんに、ヨーロッパの門は大きく開かれることでしょう。

